



平成 26 年 7 月 7 日

各 位

会社名 イワキ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 岩城 修  
(コード番号 8095 東証第一部)  
問合せ先 取締役経理部長 熱海正昭  
(TEL. 03-3279-0481)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 26 年 1 月 14 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

平成 26 年 11 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 25 年 12 月 1 日～平成 26 年 5 月 31 日)  
(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	26,000	400	430	250	7 円 40 銭
今回修正予想 (B)	26,736	614	581	318	9 円 44 銭
増減額 (B-A)	736	214	151	68	—
増減率 (%)	2.8	53.5	35.3	27.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 11 月期第 2 四半期)	25,673	479	558	343	10 円 15 銭

### 修正の理由

#### 第 2 四半期連結累計期間

当第 2 四半期連結累計期間の売上高につきましては、医薬品事業では、政府が進める後発医薬品使用促進策を背景にジェネリック医薬品市場の拡大傾向が続き、主力の外皮用剤を中心に大幅に伸長いたしました。

医薬品原料・香粧品原料事業では、ジェネリック医薬品向け原料市場の拡大によりジェネリック医薬品原料の新規採用や、合成抗菌剤原料、鎮痛剤原料および血管拡張剤原料が大幅に伸長いたしました。

一方、化成品事業は海外のスマートフォン・タブレット端末の売れ行きが鈍化するなど厳しい環境が続き、表面処理薬品のプリント配線板、その他の電子部品向け薬品が低調に推移いたしました。

しかしながら、全体としては医薬品事業が大きく伸長したことにより売上高は当初予想を上回る見込みとなりました。また、売上高増加に伴い、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも前回予想を上回る見込みとなりました。

### 通期

通期の連結業績予想につきましては、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動、為替の動向による輸入原材料価格変動の懸念など不透明な要素を勘案し、現時点での修正は見送っております。今後、業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに開示いたします。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上